

授業科目：	情報システム論		
科目区分：	経営情報学科専門科目	受講者数：	48名
担当者：	折本 寿子（経営情報学部経営情報学科）		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	行動型 ・ 参加型 ・ 複合型（※行動型・参加型ALを組み合わせで実施）		
キーワード（具体的なAL手法等）：	企業訪問，アンケート		

1. 授業の概要と目標

この科目は、学科専門科目における情報処理系科目の一つとして、ソフトウェア開発の側面から情報処理手法について学ぶことを目的とする。具体的には、「情報」と「システム」に対する概念を学び、システム及びビジネスワークフローを明確にし、システム構築を行う技術を身に付けることを目標とする。

2. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○科目名「情報システム論」

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点(工夫)	評価方法
導入 (授業外)	<ul style="list-style-type: none"> 企業訪問先の事業内容のリサーチ 同業他社との比較 (観点:ターゲット層, 企業戦略, 提供事業) 当該科目での学修内容が活かされている技術, およびそのように考えた理由を考える 	観点を明らかにし, 自分の置かれている立場から世の中に出ているサービスとの関連性を自ら見つけられる質問を行う(授業内にて実施)	レポートにて評価
展開	企業訪問を実施(90分) <ul style="list-style-type: none"> 事業内容のヒアリング システム開発の具体的な流れの学修 サービス提供しているシステムの体験 (AI関連, サーバ室見学) 質疑応答 	必ず一つ質問を行うように指導	
まとめ (授業外)	活動の振り返り <ul style="list-style-type: none"> 訪問先企業の事業内容で興味を持った物について考える 当該科目での学修が活かされている技術, およびそのように考えた理由を考える 訪問したことにより得られた知識, 視点, 観点を考える 	導入時と訪問後の意識の違いについて, キーワードの提供を行う(授業内にて実施)	レポートにて評価

3. 成果・効果

「システム開発」の言葉を実社会で運用している開発現場を体験することにより、言葉の理解ではなく体感的に感じ取ることができた。訪問前は、物づくりであるプログラミングに興味がある学生が多かったが、企画、設計で検討すべき「どのようなシステムを作るべきか」、「どのような部分を不便と感じていてどうすれば快適になるのか」といった観点をもち、興味を持った学生が増えた。その結果、将来のビジョンを明確でき、どのような学修が必要であるかが分かったと感じた学生が多くいた。

4. 課題

導入時に企業研究をしているが、実際に話を聞いて質問できる学生が少なかった。導入時に、質問内容まで書かせ企業訪問を行い、まとめで疑問と思った内容の回答を提出させることで、より興味深く話を聞くことができると思った。

5. 資料

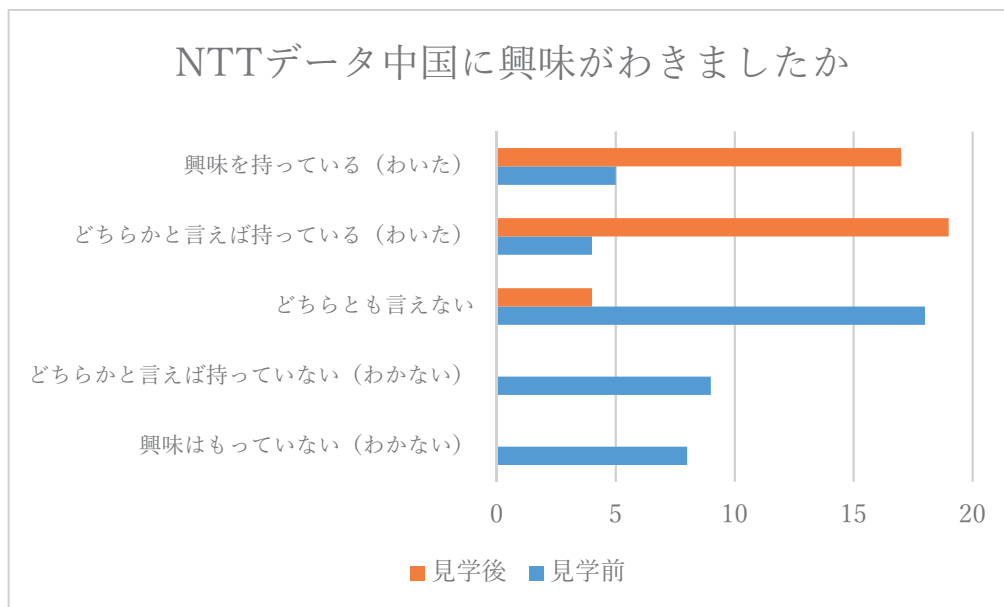
参加学生へのアンケート結果（別紙）

行動型学修のアンケート結果

実施日 2018年7月19日(木) 13:30~16:00
見学先 NTT データ中国
内容 会社概要, ソリューション (Winactor) の紹介, データセンタビジネスの紹介・見学
参加者 県立広島大学 経営情報学科2年生47名, 経営情報学科3年生1名,
経営情報学科4年生1名, 経営マネジメント専攻1年 1名, 教員 2名

以下の項目について意識調査を実施 (事前:回答者44名, 事後:回答者40名)

1. (事前) NTT データ中国に興味がありますか
(事後) NTT データ中国に興味がありましたか

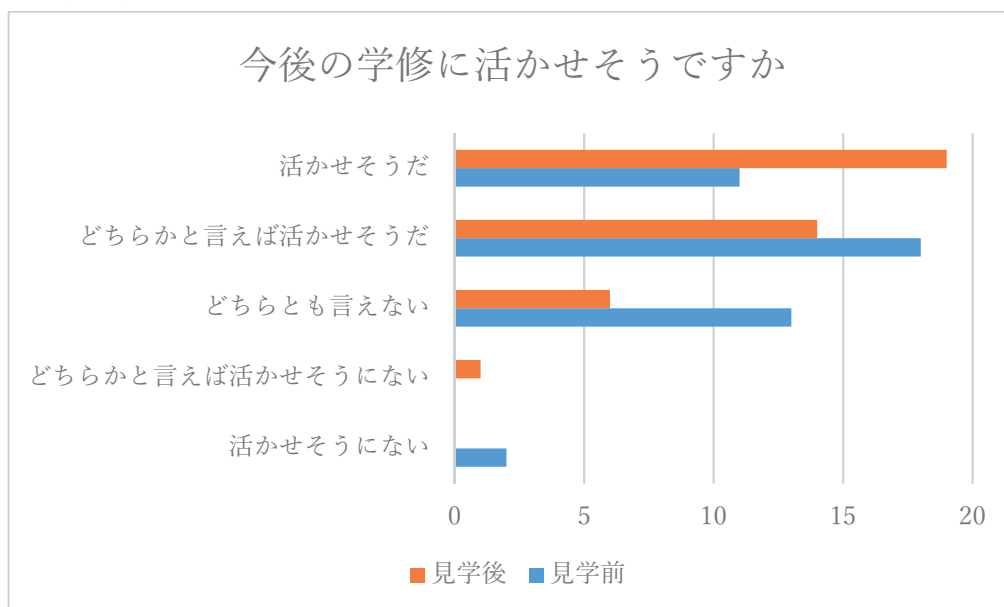


興味が湧いた内容

- ・ AI によって人間が行っていた仕事を代わりにこなして、人間に比べてミスもなく早くこなせる AI に驚いた。今後人間の仕事がどんどん減っていくのではないかと感じたから
- ・ 定型作業を自動化し、コスト削減や記入ミスの削減につながる RPA の概念と、その実行のためのツールである WinActor (多数回答)
- ・ そんなにプログラミングができなくても働いている人がいたこと。アロハという軽装で出勤していいこと。
- ・ システム構築の上流から下流まで全ての工程を経験できるという点が非常に魅力的だと感じた。
- ・ システム開発後の運用と保守について
- ・ 仕事内容とかを具体的に示れたから興味が湧いた

- ・NTT データ中国がどのような業務を行っているか知ることができ、企業や法人などに対しシステムの提供を行っていることに興味が湧いた。
- ・他社企業との共同開発をしていた点
- ・会社の雰囲気を知ることができた
- ・広島県とコラボした、働き方改革のための「どこでもワーク」
- ・職場見学

2. (事前) 企業見学をすることによって、今後の学修に活かせそうですか
 (事後) 企業見学は今後の学修に活かせそうですか



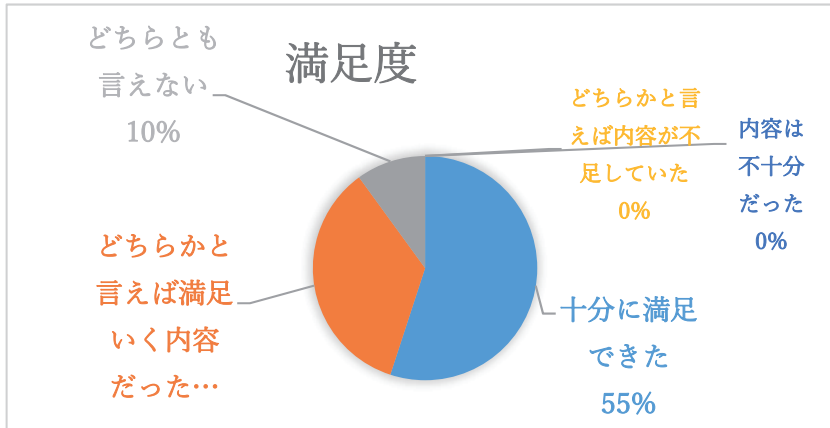
学修に活かせると思った理由

- ・IT は金融、法人、公共と色んな分野に関連し、繋がっているということ。
- ・いま授業で行なっていることが実際に仕事につながることを知ったことが、今後のやる気に繋がらそう。
- ・麒麟ビール×NTT データで、ビールサーバーにシステムを設置し、ビールの洗浄状況や、ビールの出た数などを把握させるようにすることで、効率化だけでなく業務の改革も行うと聞いた時、課題の解決だけでなく、より良くという点が、今後学修していく際に新たな視点として活かせそうだと感じた。
- ・システム開発の流れが学習したことを同じで、勉強したことが将来活かせることがわかったので、今後より一層情報分野を学んでいこうと思った。また IT の会社においても情報分野だけでなく様々な知識が必要であると分かったので、情報分野以外の授業もまじめに勉強していこうと思った。
- ・医療現場や民間企業における情報伝達システムの実例を知り、適切なデータ活用は現場の支援につながることを学ぶことができ、情報システムの役割についてヒントを得た
- ・実際システムエンジニアがどのような仕事なのかを知ることができたので、将来働く自分

の姿が見えてイメージしやすくなった。

- ・将来のビジョンが見え、どのような学修が必要か分かること
- ・将来の就職活動へのモチベーション向上（多数回答）

3. 企業見学は、満足いく内容でしたか



- ・ IT 会社はどんな仕事をしているのか全くイメージが湧かなかったので、どんな雰囲気なのか何をしているのかがとてもよく分かった。スライドで説明して頂いてとてもわかりやすかった。
- ・ よりリアルな仕事風景が見え、2年後の自分はどうなっているのか、また何がしたいのかをもう一度考え直すいい機会になった
- ・ システムの開発から運用、保守まで、さまざまな事例を用いて丁寧に説明をしていただき、その流れや新しい知識も得られるなど、充実していたと思う。
- ・ 人々が優しくかった。
- ・ 企業を見学するのは初めてだったが、すごく丁寧に説明していただき、SI 業界にすごく興味が湧いた。
- ・ 入ることのできない部分に入ることができ、会社を具体的に知ることができた。
- ・ 実際にどのような仕事をしているかを知ることができたこと。
- ・ 実際にサーバーをみることができ、実際に働いている方々から1日の業務の流れなどを教えていただけたこと。
- ・ 自分たちが今学んでいることが、仕事の面でどのように活用されているのか知れて良かった。
- ・ 自分のイメージとの違いを知れたこと。
- ・ 説明だけでなく、見学もできてとても学習できた。